

★*...-----*★

メールマガジンで語り伝える

「今を生きるスターリマンの物語」～感謝の風船ラブレター～ 2014.05.19 vol.26

★*...-----*★

本メールマガジンは、スターリマンのお話の創作者
はせがわ芳見とご縁のある大切な方々に心を込めて
毎回9の付く日にお届けさせていただいております☆

☆ごあいさつ☆

すっかり初夏の風に包まれる
さわやかな季節になりました。
皆様、お変わりございませんか？

さて、先週の日曜日の11日は、
スターリマン朗読音楽コンサートin おきなわ
「いつも君のそばにいるよ」
～母の日に心からのありがとうを込めて～を開催しました。

沖縄は、すでに梅雨入りしていて、
前夜まで強い雨風に見舞われていましたが、
コンサート当日は朝から快晴で、
小さなお子様から大人の方々まで、
たくさんのご家族の皆様にお越しいただきました。

今回、ピアニストの新崎誠実さんと
演出家の久保深樹さんが、
何度も何度もリハーサルを繰り返しながら、
細部までこだわり創りあげてくださった
「いつも君のそばにいるよ」の世界。

終演後、目を真っ赤にされてお帰りになられる
皆様のことをお見送りさせていただきながら、
ああ！開催させていただき、本当によかった！と
心から感動と感謝でいっぱいでした。

一週間以上経った今も尚、
感動の余韻が私を温かく包んでくれています。

開催にあたり、お力を貸してくださった皆様、
本当にどうもありがとうございました！
皆様は、どんな母の日を過ごされましたか？

それでは、本日から「今を生きるスターリマンの物語」の第9話 医療法人和泉会 いずみ苑 苑長 安田未知子氏のメールマガジンをお送りさせていただきます。

最後までお読みいただけましたら大変嬉しいです。

☆第9話 生涯をかけて沖縄への慈愛の祈りを捧げる☆
医療法人和泉会 いずみ苑 苑長 安田未知子氏

第1章 ～安田未知子氏との出会い～

ご縁というのは、言葉では説明の出来ない一瞬一瞬の心の出会いによって、つながっていくんだなあと、感じる事がたくさんあります。

安田未知子氏とのご縁も、そんな出会いから始まりました。

2011年3月14日。
東日本大震災の直後に活動で訪れた沖縄でとある会に参加させて頂き、そこで初めて未知子先生にお会いしました。

ご縁をつないでくださった方から、未知子先生は、沖縄戦の時、最年少でひめゆり部隊となり、生き残られた方で、「沖縄のマザーテレサ」と呼ばれている方です、と教えていただいていた。

そして、実際にお目にかかった瞬間、未知子先生から、観音様のような慈悲深い輝きを感じて、何とも言えない有り難い想いがこみ上げて来ました。

未知子先生も、私たちとの出会いをととても喜んでくださって、祐希を綺麗な心の娘さんねと、可愛がっていただき、いつも3人を温かな眼差しで応援していただくようになりました。

「スターリマン紙芝居プロジェクト」が、2011年7月に沖縄からスタートした後、未知子先生が、沖縄の子どもに紙芝居を読んでもらうことになり、その時、「スターリマンはどうして生まれたの?」とご質問いただきました。

私は、普段はあまりお伝えする機会のない、
「スターリマンの誕生」の物語をお話させていただきました。

～スターリマンの誕生～

ある小さな町に 小さな動物園がありました。
そこには、心やさしい飼育係がいました。
彼は、動物たちや町の人と、
毎日とても幸せに暮らしていました。

そんなある日、町に大きな嵐がやって来ました。
彼は、大切な動物たちや町の人たちを守ろうとして
嵐の渦に巻き込まれて、命を落としてしまいました。

生命が亡くなると 星になると言います。
彼は、夜空の星になってしまいました。

動物たちや町の人たちは彼の死を悲しみ、
「もう一度会わせてください、会わせてください」と
みんなは心から祈りました。

そして、懸命な祈りは天の星に届き、
彼は、スターリマンとなって
再び地球に還っていきました。

みんなの愛によって生まれ変わったスターリマンは、
感謝の気持ちをこめて、誰かのために、何かのために
夢を叶える9つの風船を届ける旅に出ます。

地球に愛を みんなに夢を 命あるものすべてに輝きを
世界中が家族のような温かいきずなでつながり
みんなが幸せになりますようにと願いながら…

このお話をお聴きになった未知子先生は、
「スターリマンの誕生の物語を知ること、
スターリマンの作品が、もっと皆様の心に響くので、
是非、誕生のお話を大切にお伝えしてください」
とおっしゃってくださいました。

私は未知子先生のお心には、スターリマンのように、
愛がいっぱい輝いていて、なんて慈愛に満ちた方なのだろうと、
先生に出会えたことが、改めて嬉しくなったと共に
とても大切なご縁であることを、強く受け止めました。

また、私の著書の「いつも君のそばにいるよ」を
読んでくださって、「愛がいっぱいのご本ね」
と言ってくださって。本当に嬉しかった。

未知子先生に言っていただくと、
どうしてこんなにも、私の心が癒されて、
優しくなるのでしょうか。

そして、昨年7月に、私は初めて
未知子先生のお話を落ち着いて
お聴きする機会に恵まれました。

沖縄戦のひめゆり学生隊でのこと。教員時代のお話。
生死を彷徨うような大病をハーブによって何度も克服されたお話。

ご主人様と共に、恵まれない子ども達をご自宅に住ませたり、
学校に通わせ、養育されたお話。

スペシャルオリンピックの沖縄支部を立ち上げ、
会長として、障がい者の皆様の夢を叶えていることなど…

人のために、これ程までに尽くしてこられた
未知子先生の人生は、私の胸を熱く打ち、
感動して、たくさん涙が溢れてしまいました。
そして、感謝でいっぱいになってしまいました。

未知子先生は、まさにスターリィマンその人でした。

だから、私は最初にお目にかかった瞬間に心魅かれて、
私にとって素晴らしい出会いを頂いたことを
感じる事が出来たのだと思いました。

未知子先生の愛の輝きが、私の心を照らし、
大切なことに気付かせてくださっています。

未知子先生、どうかこれからも
私たちのスターリィマンとして、
たくさんの輝きを届けてください。

「今を生きるスターリマンの物語」

☆第9話 生涯をかけて沖縄への慈愛の祈りを捧げる☆

医療法人和泉会 いずみ苑 苑長 安田未知子氏

第2章は、5月29日(木)配信予定です!

皆様、安田未知子氏との出会いは、
いかがでしたでしょうか?

未知子先生が苑長をなさっている「いずみ苑」では、
音楽療法を取り入れていて、
いつでも誰でも好きな時に弾けるようにと
各フロアにグランドピアノや三線が置いてあります。
<http://izumihospital1985.or.jp/>

また、入所されている方々が、
色々なハーブやお野菜の栽培を行っており、
いつもお土産にいただく、いずみ苑特製の
ハーブティーや手作り無添加のちんすこうは
心にも体にもやさしい、ホッとする味がします。

未知子先生が時間をかけて
大切に大切に育ててこられたものには、
本当の豊かさとは何であるかを感じることが出来ます。

さて、今回は、第2章として、
未知子先生の家族の原風景をお送り致します。

配信は、5月29日(木)となります。
皆様、どうぞお楽しみにお待ちください☆

☆後記☆

4月、5月と、沖縄に滞在させていただいた間、
未知子先生にはインタビューをさせていただきだけでなく、
美味しいランチやお夕飯もご馳走になって
その上、たくさんのお土産までいただいてしまいました。

また、11日のコンサートには、
ご長女の方と一緒に出席いただき、
一番前のお席で聴いていただきました。

最後に舞台上でご挨拶をさせていただいている時、
未知子先生がハンカチで目を抑えていらっしゃるお姿が見え、
私も、涙が込み上げて来て、本当にありがたくて、
感謝いっぱい胸が張り裂けそうでした。

コンサートにお越しいただいた皆様や、
今回お世話になった方々お一人お一人に
きちっとお礼が出来ておりませんで、
誠に申し訳ございません。

皆様、本当にありがとうございました。
これからも、がんばります！

それでは、どうか皆様に幸せがありますように…
毎日を笑顔でお過ごしくださいね☆

はせがわ芳見

☆はせがわ芳見ブログ☆

<http://starryman-smile.cocolog-nifty.com/>

★*...-----*★

メールマガジンで語り伝える

「今を生きるスターリマンの物語」～感謝の風船ラブレター～ 2014.05.29 vol.27

★*...-----*★

本メールマガジンは、スターリマンのお話の創作者
はせがわ芳見とご縁のある大切な方々に心を込めて
毎回9の付く日にお届けさせていただいております☆

☆ごあいさつ☆

皆様、お変わりございませんか？

一段と深みを増した木々たちは、
夏の色へと衣替えをし始め、
もうすぐ梅雨の季節を迎えます。

さて、私事ですが、先週末の25日に誕生日を迎え、
また、一つ年を重ねました。

その前日の24日の昼間は、代々木公園で開催された
「ラオスフェスティバル2014」に出演させて頂きました。

爽やかな風に吹かれながら
輝く青空の下、行った紙芝居ライブは、
とっても心地よかったです。

その夜は、表参道の骨董通り沿いにある
ISFネットグループさん運営の
ビュッフェスタイルレストラン「ラルティザン」で
『香り立つ初夏の宴』と題された
素敵なワイン会に参加致しました。

会を主催された田口圭吾&壬生樹歩ご夫妻のお心遣いで、
お誕生日をサプライズでお祝いさせて頂きました。
心尽しの温かい皆様の真心に感謝でいっぱいになり、
涙が溢れて止まりませんでした。

感動のバースデーをプレゼントして頂き、
本当にどうもありがとうございました！

そして、お誕生日の翌日26日は、
大阪へと行ってまいりました。

娘は、その後、神戸や広島等で打合せを行い、今朝方帰ってまいりました。

こんなに毎日、充実した日々を送ることが出来て、なんて幸せなのだろうと感謝でいっぱいです。

皆様のおかげで、新たに迎えた歳も本当に素晴らしい一年になりそうです。

それでは、本日は「今を生きるスターリィマンの物語」の第9話 第2章 安田未知子氏の家族の原風景 をお送り致します。最後まで、お読み頂けましたら嬉しく思います。

☆第9話 生涯をかけて沖縄への慈愛の祈りを捧げる☆
医療法人和泉会 いずみ苑 苑長 安田未知子氏

第2章 ～安田未知子氏の家族の原風景～

Q1. ご家族のことを教えてください

私は、父の高江洲義光(ぎこう)明治36年沖縄生まれと、母の英子、明治42年沖縄生まれの長女として、昭和6年11月28日に、東京港区で生まれました。

私は、弟3人と妹2人の6人弟妹です。6人とも健在で、とっても仲良しです。

Q2. お父様のことを教えてください

父は、歯科医でした。白金の自宅の敷地に、歯科医院があって、両親から愛情いっぱいに可愛がられて、心豊かになるように育てられました。

父は、自分に厳しく、他人には優しい人で、足長おじさんでしたね。
私は幼い時から、善き人として生きる哲学を教えられながら、大きくなりました。

例えば、

「生涯とは、助傘を神様からもらって、
自分が生きていとも思っても、自分は生きられるものではない。
命は年を取るのもではない。取ろうと思っても取れない。
こうして頂く。助傘と一緒に頂く。
頂きながら60の坂を登っていく。

ここでひとつもらい、こっちでひとつもらいと言ってね。
そうやっている間に、いっぱい貯まる。これは徳だと。
善いことをした時だけもらう、助傘がね。
降りる時は、右も左もみて、ゆっくり降りなさい。
これが年を頂いたもののね、徳を積んだもののね、
この小流がたくさん貯まるんだぞ。」

そんな事を言っていました。

Q3. お母様のことを教えてください

母は思いやりがあって、優しく、
常に努力をしている、耐える人でもありました。
祈りの中で生きている人でしてね。
母は祈る心の人でした。

そして、努力の人、思いやりの人。
物言わぬ指導者、無言の指導者です。

「人間は善いことも悪いこともする。
人間は善いことをするのが当たり前。

善いことをした時は、黙って。
それが楽しいんだよ。
ここに(肝心ちむぐる)に貯まってね。
祈る心があれば、絶えず誰かのために祈る。

人の言葉につられて、悪口を言ったりはしない。
あの悪い人も、善い人もあなたなのよ。」

そう言っていました。

嘘つく子は嘘つかない子に。
泥棒する子には、ほしいものを買ってあげて。

今考えるとすごいなと思うんです。
お祖父さんもお祖母さんもすごい人でした。

Q4. 幼少時代のことを教えてください。

両親は、太平洋戦争が始まってすぐ、
私のお祖父さんが、どうせ死ぬなら一緒に沖縄でということで、
家族で沖縄に死ぬために帰りました。

私は小学校2年生でした。
皆さんは沖縄から疎開しているのに、
私たち家族はご先祖様が眠っている故郷で死ぬ覚悟で、
沖縄に帰って行ったのでした。

私は白金の家で、素晴らしい両親と良い生活をしていまして、
おっとり育てられ、おとなしい子どもでした。
沖縄に戻って、私は沖縄の言葉がわからず、
学校へ行けなくなってしまいました。
小学校2年生の1年間行きませんでした。

心配になった母は、今のうるま市に来たんですが、
ここでもなお言葉がわからないので、3年生も1年間、
ずっと学校には行けませんでした。

やっと4年生から、4年、5年、6年と3ヶ年出て、
小学校を卒業をしました。

その後、一高女の方が飛び級で受験出来ると聞いて、
母はこんなに学校行かなくても、受けられますかと…
大丈夫ですよと言ってくれて、受験出来ました。

4番で入って、い、ろ、は、に、の4組あって、
2組の会長になって、そのころ庶務と言ってたんですが、
先生方にとっても可愛がられてました。

可愛がられた一つに、武道を習っていたんです。
叔父が剣道の大家で、天皇陛下の御前試合をするような人で、
その叔父に教えてもらっていたんです。

スポーツは当時、やってはいけない。
テニスやピンポンもいけない。

テニスの有名な学校だったのに、
庭球とか卓球と言う言葉しか使えなかったんです。

叔父は武独殿言うのをつくりまして、
剣道、なぎなた、護身術、空手、弓を教えていました。
私は弓が上手で、賞を貰ったりして、
一高女では1年生なのに、すぐに選手になってんです。

水泳も得意で、船が沈んだ時に人を助けるために、
平泳ぎを覚えさせられました。
何でも出来たので、先生方が目をつけていたんですね。
戦争に使えると思って、先生に可愛がられて。
特に校長先生には可愛がられて。
この子戦争に使えるなど、観ていたんじゃないですか。

島でいよいよ決死をするために、ひめゆり部隊として、
5年、6年は一緒に戦争に連れていかれました。
晩には、校長先生の所に連れて行かれて、手紙を書かされたんです。

「お姉さんたちを国賊と言わせたくないのだから帰って来てください。」と。

女子師範学校に入ったお姉さんたちも、
また、疎開した人たち合わせて42名に、
校長先生の言われて通りに私は手紙を書きました。
その中から40名は帰って来ました。

2名の方は、慰霊祭の時に会うと、
「未知子さん、ごめんなさい！手紙を受け取ったのに行けなくて…」
泣くんですよ。それから慰霊祭に行くのが、嫌になってね。

慰霊祭のあと、40名の方のお墓参りをして、お仏壇の前で手を合わせてね。
でも2名だけ探せなかったんですが、40年ぶりに探せました。

ある雨の日に偶然ね。みんなの所をまわった時に、
写真の前に座ったら、そこにいるような感じがするから、
大先輩の先生方に、写真を集めましょうとアイデアを出しました。

比嘉英子先生がそれは良い事に気が付いたわと、
写真を集めることになったのです。
その代り、グループで100万ずつお金を集めることになって、
私は責任があるから、グループでなくて一人で集めました。
そして、あのひめゆりの塔ができたんです。
私はお姉さんたちにごめんなさいと思いながら、
これで少しは何かが返せたかなと。後で苦しいのね。

私がした事が、そのまま戦争につながったでしょう。
だからね、私は何になったらいいかわからない。

教員にはなりたくない。教育の恐ろしさを知っているから。
意味がわかっているから。どうしようって。
でも、教員がとても足りない時で、
沖縄で女性で初めて英語の教員免許を取って、教員になりました。

なりたくなかった教員になっちゃって。
教員になったら、なお苦しくて、どうしよう、どうしようって。

それで、私は小学校の時、
言葉がわからないで学校に行けなかったんだから、
言葉っていうのを大切にしよう、言葉は文化だから。
方言を忘れないようにしよう。

私は首里のおばあさんの所に行って教えてもらいました。
おばあさんの言葉を忘れないように、今でも方言は、首里の方言です。
何処に行っても、方言で挨拶します。

最近、沖縄でも方言で挨拶しましょうが流行っていますが、
私は戦後からずっと、方言で挨拶しています。
どこでも、講演会でも、おじいさんでもおばあさんでも挨拶します。
次に、英語で挨拶します。沖縄は外人もいるから、
二つ挨拶して、挨拶がいかに大事かをお話します。

人の話は(10のうち)7までしか話せませんね。
あとの3つは話せない。家族であっても何でも。
でもね、戦争の話はね、5しか話せない。
よく話して半分です。苦しくなってあと話せない。
本当の5は、怖くて話せない。これが戦争です。

戦争で産めよ、育てよの時代。
沖縄では困難だからと、南米に移民した人たちがたくさんいて、
その方々(一世)に会いに、ブラジルとアルゼンチンに行った時、
私はお祖母さんの偉業を知りました。

その時、102歳の金城さんと言うお婆さんに会ったんです。
そして、私がここにあるのは、高江洲かめさんのおかげなんですと、
お聞きして驚きました。私のお祖母さんですから。

子たくさんだと沖縄では育てられないから、
海外に行こうと言うことになった時、
お祖母さんがその人たちを集めて、

「神様はあなたと共にいらしゃるから、
いつもどんな時でも、神様に祈りなさい。
しっかりと祈りなさい。しっかりと祈ったら
成功するから、頑張れ。」
と、そう言ってくださってね。私はここに来たんです。

そんな話を聞かせていただきました。

金城さんは、やんばる(北部)の人で、
一緒に同行した副知事の大きいお祖母さんと、
金城さんのお祖母さんと姉妹か、従妹だということもわかって。
本当に嬉しかったですね。南米でお祖母さんのことを知るなんてね。

私は、素晴らしい先祖、素晴らしい両親に育てられた
自分はなんて幸せだろう。いつも感じますよ。

Q5. ご結婚されてからの話を教えてください。

私は22歳の時、同じ教員の夫と結婚をしました。

私はね、素晴らしい両親に育てられて、何不自由なく育って、
私は、御恩返しをいつやろうかと思った時にね。
先生になって、学校に障がい者を預けられた子を、
最初に預かったんです。だれも引き受ける先生がいなくてね。
今で言う多動性の子でした。

トントントンと机の上をサルみたいに歩いたりするんです。
また、小児マヒの子も預かりました。
学校に預けに来るんですが、先生方は受けとらないので、
私は受け取りました。
この子たちより、私の方が元気だからと言って、預かったんです。

今年の3月、この最初に預かった子に、偶然に出会ったんです。
最初はわからなかったんですが…。覚えていてくれていて。
何歳になったって聞いたら、77歳だって。

沖縄では、どうせ障がいの子は、
13歳か、14歳ぐらいまでしか生きられない。
よく生きて、20歳か、21歳までと言われていたんですよ。
また、預かった子で、今も近くの部落にいる人がいるんですよ。
文化祭があったので行った時に、年を聞いたら、70歳ぐらいだと聞いて、
こんなに生きることが出来るんだと知って、嬉しくて。

今まで誰にも言っていないんですが、私が医者なら書きたいですね。
「人の命はわからない」って。これは言いたいですね。

43年間、教員をして、その間に、
43名の子ども達(身よりのない子ども達)を、
我が子のように家で面倒をみながら育てました。
私の子ども5人と同じように育てました。

そのおかげで、子ども達は優しい人になりました。
これも、父や母がお祖父さん、お祖母さんの教えを頂いたおかげです。

それと私は、27歳の時、リュウマチになり、
57歳まで痛みと戦いました。

白金の家にいた時、母は幼い私に、
「オットーさん(ホームレス)に、おにぎりをあげて」
と、いつも渡してくれました。
そんなオットーさんに助けられたんです。

57歳の時、枕もとにオットーさんが現れて、
「みーちゃん!大きい病院に行ってね。」と言うので、
琉大に行って調べてもらったら、
肝臓がん、肝臓肥大、腎不全と言われて、
治療してもらって助かりました。

その時に病気になって、ハーブと出会って、
ハーブのことを学び癒されながら、
自分で治していくことを知りました。
今の介護の病院内で、治療のために
ハーブ園を作って活かしています。

また、8ヶ月、目が見えない時があって、
子どもの顔も見られないのではと、必死に治しました。
その時、目の見えない子の教育から、
教育とは厳しさと優しさがあって、
育つんだということに気づきました。

Q6. 苦しかった時、辛かった時のお話を教えてください。

息子2人と娘1人のあと、子どもが生まれませんでした。
その間、女の人が子供が出来ない悔しさがわかりました。

13年後に生まれたのが、由美ちゃんでした。
由美ちゃんは10歳で逝ってしまいました。
何でこんな良い子が何の罪もない子かと、
私は神様と喧嘩して、2度死にたいと思いました。

目が見えなくなった時と、由美ちゃんが亡くなった時です。

これもすべてはキリスト教ではお恵み。仏教では業と言う。
これが起きてから、私は元気になって、教員を定年してから、
元気になって、風邪のひかないし、ひとつもひいたことがない。
何にもないですね。珍しいです。

ずい分経ってから、亡くなった由美ちゃんが、
迷ったりした時に、「go」と「stop」で教えてくれるようになり、
いつも由美ちゃんはわたしのそばにいてくれます。

色んな体験をしたから、わかるようになるんですよ。
人は苦勞しなくちゃね。若い時に苦勞したのは、
皆さんがこう言う時にこうすると良いよ。こうするんだよ。
と教えてあげなさいと。それが神様のお恵みで、
そのことが出来るように、私を苦勞させたんですね。

Q7. 未知子先生のスターリイマンは誰ですか？

私のスターリイマンは両親と、
10歳で旅立った娘の由美ちゃんです。

「今を生きるスターリイマンの物語」

☆第9話 生涯をかけて沖縄への慈愛の祈りを捧げる☆
医療法人和泉会 いずみ苑 苑長 安田未知子氏

第3章は、6月9日(月)配信予定です！

皆様、安田未知子先生の家族の原風景は
いかかでしたでしょうか？

幼い頃、どれだけの愛を受けて育ったかが、
その人の愛の力に大きく影響することを
今を生きるスターリマンの皆様の
家族の原風景を教えて頂くたびに強く感じます。

溢れるばかりのご両親の愛に育まれて、
成長した未知子先生。
やはり愛の人になるべくしてなった
沖縄のマザーテレサだったのだと思いました。

スターリマンのようなご両親やご先祖様がいたからこそ、
同じようにスターリマンのような人になれるのでしょうね。
家族って本当に大切ですね。

さて、今回は、いよいよ第3章の
安田未知子氏のスターリマンに宛てた
感謝の風船レターをお送り致します。

配信は、6月9日(月)となります。
皆様、どうぞお楽しみにお待ちください☆

☆後記☆

今年は、私がスターリマンのお話を描き始めて、
25年とお話致しましたが、自分自身がこれから
創作者としてどう生きるかを、日々考えています。

この25年という節目の年は、あと7か月間です。
頑張っって年内には、このメールマガジンでお送りしている
「今を生きるスターリマンの物語」を出版したいと思っています。
皆様、是非一人でも多くの方に
スターリマンとしての素晴らしい生き方を
お伝えできるように応援して頂けたら嬉しいです。

それでは、皆様、また来月のメールマガジンまで、
素敵な毎日をお過ごしくださいね☆

はせがわ芳見

☆はせがわ芳見ブログ☆

<http://starryman-smile.cocolog-nifty.com/>

★*...-----*★

メールマガジンで語り伝える

「今を生きるスターリマンの物語」～感謝の風船ラブレター～ 2014.06.09 vol.28

★*...-----*★

本メールマガジンは、スターリマンのお話の創作者
はせがわ芳見とご縁のある大切な方々に心を込めて
毎回9の付く日にお届けさせていただいております☆

☆ごあいさつ☆

皆様、お変わりございませんか？

真夏のような暑さが続いた後、
先週の5日に関東甲信、北陸地方で
早くも梅雨入りをしましたね。

今年は、梅雨が長いとの予想ですが、
私は、お日様が大好きだから
お天気になってほしいと願っています。

川の増水や土砂災害などの警報が出る程、
強い雨が降る毎日が日本各地で続いています。
皆様、どうかお気をつけてお過ごしくださいね。

さて、今回のメールマガジンは、
太陽いっぱい沖縄のマザーテレサと呼ばれている
安田未知子先生の第3章となる
スターリマンへの感謝の風船ラブレターをお送り致します。

最後までお読み頂けましたらとてもうれしいです。

☆第9話 生涯をかけて沖縄への慈愛の祈りを捧げる☆
医療法人和泉会 いずみ苑 苑長 安田未知子氏

第3章 ～安田未知子氏のスターリマンへの感謝の風船ラブレター～

私のスターリマンは両親と、
10歳で旅立った娘の由美ちゃんです。

私は、東京の白金(港区)で誕生しましたが、
900グラムの未熟児を育てるのに、
両親は大変苦労したと思います。

父は、2歳になった私を連れて、
東京の歯科大に通いました。
私の居場所は、学長先生のお部屋でしたので、
学生の皆さんに可愛がられて、楽しい時間を過ごしました。

幼少期は、父の哲学を子守唄と聞き、
両親の愛に育まれて、幸せな毎日を過ごしました。

母は、2歳の私に、
「みーちゃん、オットさん(ホームレス)が来るよ。
おにぎりをあげて」と他人へ施こすことを教えてくれました。

父は、ボロを着ている人は神さまだよ。
身なりをみて、他人を見下げてはいけない。

右の人、左の人みんな仲良く手をつないで歩くこと
「隣人を愛せよ」と言うことを、
幼少期の私に、しっかりと教えてくれました。

この躰から、私の奉仕活動の肝心(こころ)は、
この躰の原点になって、動いているのだと確信します。

「三つ子の魂 百までも」
「家習ぬ外習い(ヤーナレスース、ウカナレー)

家庭の中での躰が外に出ても、
行動が出来るという沖縄の教訓にもあります。

母は6名の弟妹に
「トイレを掃除すると、神様のお守りがある」
「みーちゃん!あなたはお姫様だから、
きれいな言葉、きれいな振る舞いをするのよ」と、
毎日美しい娘になるようにと一緒にお祈りをするので、
元気に育ったと思います。

両親から「○○してはダメ」と言う言葉は、聞いたことはない。

仕事を終えた父と話す時、楽しい時間でした。
「楽しい時は、楽しむがよし」
「苦しい時は、苦しむもよし」
「泣きたいときは 泣くもよし」

「苦しくてどうしようもなくなったら 父のところに 来い」と
きびしい中にも、優しい父は足長おじさんでした。

母は、祈る人、努力の人、学ぶ人、
他人を思いやる心は、特に素晴らしく、
無言の教育者でした。

悪い人も、善い人も、鏡にうつったあなたですから、
よく学ぶことを教えてくれた。

両親はすばらしいスターリイマンです。

由美ちゃんは、幼い時から、私(親)に
いろいろなことを教えてくれた不思議な子でした。

1歳半から本を手にして、
4歳までには、小学館の50巻セットを読み終えて、
小学生になって、おけいこの帰りに、
本屋で立ち読みして、好きな本を買っている中に
「塩野峠」の人間の生き方に感動して、
26冊も買って、大人に配っていた。

たった10年の生涯でしたが、
神父さまや、渡辺和子シスター、
その他たくさんの人に愛されて
「ありがとう」という言葉をのこして
旅立っていきました。

幼い時から、お星さまになりたいと言っていたので、
夜空の星を眺めて「由美ちゅんはどの星かしら」と、
家族で話しています。

肉体は亡びても、霊魂はいつも私のそばにいて、
私のスターリイマンになっています。

安田未知子先生のスターリマンの感謝の風船レターは
いかかでしたでしょうか？

素晴らしいスターリマンのご両親の教えと
いつもそばにいてくれる由美ちゃんのスターリマン！

その愛に包まれて未知子先生は、
沖縄のマザーテレサとして
今を生きていらしゃるお姿に、
私は、命を紡いでくれる家族とは
どんなに、かけがえのない大切な宝物であると
また、心が震えてしまいました。

今月6月23日に、沖縄の方々にとって、
特別で大切な「慰霊の日」を迎えます。

昭和20年、沖縄軍司令官の牛島満中将与
同参謀長の長勇中將が糸満の摩文仁で自決した日。
沖縄にとっての終戦記念日です。

毎年、慰霊祭が行われている
糸満の平和記念公園の「平和の礎」には、
沖縄戦線で亡くなられた人たちの名前が
国境を越えて、人種をこえて刻まれています。
<http://kouen.heiwa-irei-okinawa.jp/kouen.html>

未知子先生と出会い、
沖縄戦中のお話を直にお聞かせいただき、
忘れてはならない平和への祈りを
ずっとずっとつないでいかなければと
改めてその必要性を感じています。

かけがえのない人々の命や祈りを
スターリマンの風船にのせて
未来を輝かせていけたらと願うばかりです。

☆後記☆

未知子先生は、今月WAVE出版からご本を出版されるそうです。
<http://www.wave-publishers.co.jp/np/isbn/9784872906851/>

このメールマガジンの第1話でご紹介させて頂いた
日本理化学工業の大山康弘会長の著書「利他のすすめ」も
WAVE出版から発行されています。
<http://www.wave-publishers.co.jp/np/isbn/9784872905083/>

そして、私の著書「いつも君のそばにいるよ」を
出版して下さった学研パブリッシングの遠藤励起編集長は、
WAVE出版社長でいらした玉腰直人氏を尊敬していらっしゃるとのこと。

世のため、人のために尽くしている
「スターリイマン」のような善き人たちのご縁が
こうしてつながっていることに
とても幸せな気持ちを頂いています。

また、第4話でご紹介させて頂いた高野登氏も
4月に新しいご本を出版されました。
<http://www.kanki-pub.co.jp/pub/book/details/9784761269913>

それから、今後のメールマガジンで
ご紹介させて頂く予定の鬼丸昌也氏も
先月末にご本を出版されたばかりです。
<http://www.fusosha.co.jp/books/detail/4080>

梅雨の季節、お時間がございましたら
ご紹介させて頂きましたスターリイマンの皆様の
著書を手にも、心豊かな時間をお過ごしただけなら
とてもうれしいです。

それでは、皆様、素敵な日々をお過ごしくださいませ。

はせがわ芳見
